

いまこそ農政を転換するときです！

私は9月定例議会の一般質問で、米を中心とした農業問題、地域医療問題を取りあげ、市長に見解を求めました。以下はその大要です。

【橋爪】農林業センサスによると、20年前の農業経営体数は8211だった。それが5年前には3111と4割弱に激減している。また5年前の調査では後継者がいないという経営体は8割にのぼっている。極めて深刻だ。どう見ているか聞きたい。

【中川市長】消費者のみなさんにも米価について一定の理解を得る一方で、農業経営の効率化とコスト低減を推進し、経営体質の強化・改善などをすすめて、多くの担い手を引き付けるような魅力ある産業にしていくことが必要だ。

【橋爪】食料安全保障崩壊の危機の中で、国に対して増産と所得補償を働きかけるべきだ。市としても思い切った増産目標と計画を打ち出すべきではないか。

【市長】国は再来年からの水田政策を根本的に見直すとしている。まずは、国の動きを注視し、懸念がある場合は国への要望活動を行っていく。

【橋爪】これからの地域農業の担い手をどう作っていくか。先日、NHKEテレで非常に注目した番組があった。そこでは、`あきらめない農家たち、という視点で、小さな農家も大規模経営体も、自分たちの暮らしを守るため、地域を守るため、日本の食料を守るために、何をすべきかを示していた。農業を楽しみ、顔の見える関係を消費者とのなかでつくっ

ていくことが大事だと分かった。学校給食もこういったことを頭においてやらないといけないのではないかな。

【市長】生産者と消費者をつなげていくというのは、私もやろうとしていることだ。これからも広げていく。

松代病院の入院機能確保に向け、意見を述べると約束

【橋爪】県立松代病院は旧東頸地区の住民にとって重要な医療機関の1つであり、十日町市とともに診療所への転換に反対の意思を表示すべきと考えるがいか

【市長】上越地域医療構想調整会議の議論において、松代病院の無床診療所化の影響を考慮した上で、上越、魚沼の2つの医療圏の境界エリアにおいても、外来機能の維持及び入院機能の確保がなされるよう、しっかりと意見を述べていく。

【橋爪】松代病院については、上越市民の命にかかわる問題だ。今回の十日町病院への入院機能統合方針は上越市に相談があったか。

【星野健康福祉部長】松代病院の無床診療所化は特に相談がなかった。聞いている。

【橋爪】県だって、上越市民が利用して



いることはわかっていながら、上越市の意見を聴く機会がない。おかしいじゃないか。

【市長】その点は県にしっかりと伝えていく。

【橋爪】県立柿崎病院は「患者数の減少等を踏まえた機能規模の適正化」の対象になっているが、最新の県の意向と市長の考えを聞きたい。

【市長】柿崎病院については、同病院を含む5つの病院を「遅くとも令和7年度末までに方針を決定し、

順次、速やかに実施する病院」としているが、この間の上越地域医療構想調整会議では、病院の役割や病床数について、

具体的な議論は行われていない。



【バイカウツギ】（再掲）。アジサイ科の落葉低木。漢字で「梅花空木」と書きます。この花と初めて出合った20数年前、吉川区下川谷でのことでした。数あるウツギのなかでもひととき美しく、惚れ惚れしたものです。花期は5月～6月。花は白、形は梅の花と同じ感じです。花言葉は「気品」「思い出」。19日、吉川区上川谷にて撮影しました。



地元老人会の小旅行。牧区の深山荘にて。



畔でくつろぐ幼鳥たち。（吉川、25日）

はしづめ法一の活動レポート

No.2209 2025.6.29

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

いまこそ農政を転換するときです！

私は9月定例議会の一般質問で、米を中心とした農業問題、地域医療問題を取りあげ、市長に見解を求めました。以下はその大要です。

【橋爪】農林業センサスによると、20年前の農業経営体数は8211だった。それが5年前には3111と4割弱に激減している。また5年前の調査では後継者がいないという経営体は8割にのぼっている。極めて深刻だ。どう見ているか聞きたい。

【中川市長】消費者のみなさんにも米価について一定の理解を得る一方で、農業経営の効率化とコスト低減を推進し、経営体質の強化・改善などをすすめて、多くの担い手を引き付けるような魅力ある産業にしていくことが必要だ。

【橋爪】食料安全保障崩壊の危機の中で、国に対して増産と所得補償を働きかけるべきだ。市としても思い切った増産目標と計画を打ち出すべきではないか。

【市長】国は再来年からの水田政策を根本的に見直すとしている。まずは、国の動きを注視し、懸念がある場合は国への要望活動を行っていく。

【橋爪】これからの地域農業の担い手をどう作っていくか。先日、NHKEテレで非常に注目した番組があった。そこでは、`あきらめない農家たち、という視点で、小さな農家も大規模経営体も、自分たちの暮らしを守るため、地域を守るため、日本の食料を守るために、何をすべきかを示していた。農業を楽しみ、顔の見える関係を消費者とのなかでつくっ

ていくことが大事だと分かった。学校給食もこういったことを頭においてやらないといけないのではないかな。

【市長】生産者と消費者をつなげていくというのは、私もやろうとしていることだ。これからも広げていく。

松代病院の入院機能確保に向け、意見を述べると約束

【橋爪】県立松代病院は旧東頸地区の住民にとって重要な医療機関の1つであり、十日町市とともに診療所への転換に反対の意思を表示すべきと考えるがいかかが。

【市長】上越地域医療構想調整会議の議論において、松代病院の無床診療所化の影響を考慮した上で、上越、魚沼の2つの医療圏の境界エリアにおいても、外来機能の維持及び入院機能の確保がなされるよう、しっかりと意見を述べていく。

【橋爪】松代病院については、上越市民の命にかかわる問題だ。今回の十日町病院への入院機能統合方針は上越市に相談があったか。

【星野健康福祉部長】松代病院の無床診療所化は特に相談がなかった。聞いている。

【橋爪】県だって、上越市民が利用して



いることはわかっていながら、上越市の意見を聴く機会がない。おかしいじゃないか。

【市長】その点は県にしっかりと伝えていく。

【橋爪】県立柿崎病院は「患者数の減少等を踏まえた機能規模の適正化」の対象になっているが、最新の県の意向と市長の考えを聞きたい。

【市長】柿崎病院については、同病院を含む5つの病院を「遅くとも令和7年度末までに方針を決定し、

順次、速やかに実施する病院」としているが、この間の上越地域医療構想調整会議では、病院の役割や病床数について、

具体的な議論は行われていない。



【バイカウツギ】（再掲）。アジサイ科の落葉低木。漢字で「梅花空木」と書きます。この花と初めて出合った20数年前、吉川区下川谷でのことでした。数あるウツギのなかでもひととき美しく、惚れ惚れしたものです。花期は5月～6月。花は白、形は梅の花と同じ感じです。花言葉は「気品」「思い出」。19日、吉川区上川谷にて撮影しました。



久しぶりに柿崎区「お引上げ商工まつり」に行ってきました。大変な賑わいでした。イラストは浄福寺でのクレーのライブ、素敵でした。



畔でくつろぐ幼鳥たち。（吉川、25日）

はしづめ法一の活動レポート

No.2209 2025.6.29

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八五六回

幼馴染

市役所などでの用事が思っていたよりも早く終わって、わが家に着いた時、ふと二日ほど前にももらったR子さんからのラインのことを思い出しました。

ラインには「尾神に帰ってきました」で始まる文章が数行書いてありました。そのなかには書いてありませんでしたが、「時間があつたら顔を見せてください」というR子さんの気持ちを読み取れるメッセージでした。何十年という長い付き合いによる勘の働きです。

きょう行かないと、次回までR子さんには会えないな。そう思った私は蛭場（尾神の小字名）まで車を走らせました。もちろん、クーラーも入れて……。その日は気温が高く、三十度近くもあつたのです。

蛭場に着くと、R子さんの家の周りは草がきれいに刈払われていました。たぶん、尾神出身の同級生に頼んでやってもらったのだと思います。

玄関前まで車で上がると、R子さんは外に出ていました。ろくな挨拶もせず、すぐに私が向かったのは小さなタネ（池）です。長年、タネの主だった大きな黒い鯉は次々と減り、いまは一匹となつてしまいましたが、その残った一匹の鯉が元気であるかどうか、何よりもそのことが気になっていたのでした。

五分くらい待ってみたのですが、その鯉はとうとう姿を見せてくれませんでした。どうも土手際の大きなムロになっているところにいるようです。大きな鯉は出てきませんでしたが、その代わり色鯉が五匹、グルグル回って迎えてくれました。お客さんが来て喜び子どもたちのように……。この小さなタネにはホースで水が注がれています。それも高さ五メートルほどのところから流れ落ちる。言うまでもなく「ドドドド」という大きな音がします。これは寝ていても聞こえるそうで、時々、雨の音と間違えると

か。流れ落ちる水の様子をしばらく見ていたら、だいぶ涼しくなりました。

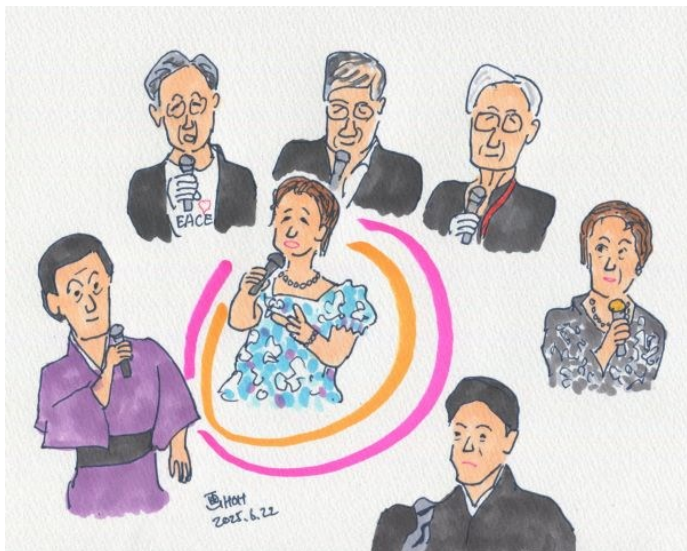
タネの土手のところは年中、様々な野の花が咲きます。私が「あら、あんなところにホタルブクロが咲いている」と言ったら、旧水源分校（現在のスカイトピア遊ランド）のそばにもホタルブクロが咲いていた、釜平（がまびろ・小字名）へ行く道にも咲くよと賑やかになりました。

しばらく二人でタネのそばにいたのですが、自然と二人の目は蛭場の前に見える「ヨシワラ」「ムケ」（いずれも地名）などの山々に向きました。昔は、杉林が目立ちましたが、いまは他の木も大きくなって存在感がありません。「こうなれば、ウドはないだろうね」と言う、「そんなことはないよ。妹が採ってきたもん」との言葉が返ってきました。比較的近くに住む私よりも詳しいのには驚きました。

続いて、「あそこには、おうちの田んぼが三枚あって、その近くにサダンキョ（ブラム）の木があつたんだよ」と私が言うのと、「私んちにも木があつて、父が箱に入れて送ってくれたの。いまは跡形もなくなつたけど」とR子さんは言いました。これだけ話がただただ、いまは亡き父母、キョウダイ、幼馴染など蛭場に住んでいた人たちの懐かしい思い出が次々とよみがえってくるから不思議です。この日は話題となりました。R子さんは私よりも少し若い幼馴染ですが、こんな風に時々戻ってきてくれるだけでも元気が出ます。

そう言えば、R子さんちのタネの土手にはクガイソウも咲いていました。クガイソウの花言葉は「明るい家族」です。普段は誰も住んでいないのに、クガイソウやホタルブクロの花を見ると、数十年前、一緒に暮らし、遊んだみんなの笑顔が浮かんできます。

44人が熱唱、熱演…5回目の月影歌謡祭



春日久代さん追悼の月影歌謡祭の出場者は44人の何人もの人が「春日さん、聴いていますか」と呼びかけたり、エピソードを語ったりしながら歌や踊りを披露しました。

私は春日さんとのそもそものつながりを明らかにし、「青春時代」を歌いました。イラストは、私が会場にいた時に出番があつた何人かを描きました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月18日(水)	6月25日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.053	0.047
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.050	0.050
名立分遣所	0.050	0.057
高士分遣所	0.053	0.050

全国女性消防操法大会へ

上越市消防団の女性消防部のみなさんが新潟県代表として全国女性消防操法大会に出場することがこのほど決まりました。

22日の上越市消防点検では、女性消防部のみなさんによる操法が披露されました。きびきびした動きは見事でした。

